

研究機関：広島大学

研究課題名	膀胱留置カテーテル関連感染（CAUTI）低減に向けた看護師主導のカテーテル抜去・抜去後プロトコール導入効果の検証
研究責任者名	広島大学病院 看護師長 右近清子
研究期間	（倫理委員会承認後） ～ 2023年 3月末日
対象者	<p>【後視的調査】2016年4月1日より倫理委員会承認日まで、高度救命救急センターに入院し膀胱留置カテーテルの留置を行った患者で心肺停止状態でない患者。</p> <p>【前視的調査】倫理委員会承認日～2020年3月31日まで、広島大学病院高度救命救急センターに入院し膀胱留置カテーテルの留置を行った患者。腎泌尿器疾患患者また、上記センター以外で既に膀胱留置カテーテルが留置された後に入院となった患者は除外。</p>
意義・目的	<p>膀胱留置カテーテルの長期留置は、カテーテル関連感染の危険因子となります。これまでに、看護師主導プロトコールや多職種チームによる介入がカテーテル使用率を低減させることは明らかになっていますが、大学病院集中治療型の高度救命救急センターといった大規模医療機関における、看護師主導カテーテル抜去プロトコールの有用性や、抜去後の排尿障害（尿閉）・尿路感染発生率減少効果については、いまだ検証されていません。今回、大学病院高度救命救急センターにおいて、看護師主導の膀胱留置カテーテル早期抜去プロトコールを策定し、膀胱留置カテーテル関連感染の発生予防の効果を明らかにするため、この研究を計画しました。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は、年齢・原疾患名・膀胱留置カテーテル留置期間・血液データ（炎症マーカー）・バイタルサイン・意識レベル・精神状態・水分出納・安静度・日常生活動作・抜去後の尿意の有無と自尿の有無・初回自尿の時間と量です。（個人を特定可能な情報は解析に用いません）</p>
共同研究機関	共同研究機関はありません
試料・情報の管理責任者	広島大学病院 看護師長 右近清子
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3</p> <p>T e l : 082-257-5586 広島大学病院 高度救命救急センター 副看護師長 松本志保</p>